

安楽寺寺報

聞光

第78号
涅槃会号
2016/2/15

発行所
〒737-0054
呉市上山田町2-28
安楽寺
0823-21-7561

つもり

信楽晃仁

二月一日、今年も安芸南組の総講習会がクレイトンベイホテルにて開催されました。講師は、シンガポールグライターで僧侶という二階堂和美先生。現在中国新聞の洗心欄にも毎週エッセーを書かれているので、存じの方も多いと思います。当日はそのせいか、二九〇名もの参加者が集まりました。先生は今まで資生堂や日産のCM、映画の挿入歌。スタジオジブリの「かぐや姫の物語」の主題歌も作られ、その方面では大活躍をしてこられました。そんな彼女は大竹の浄土真宗のお寺の娘さん。今はその大竹の御自坊に拠点を持ち、僧侶とシンガーソングライター、そしてお母さんと、各方面で活躍中です。

当日は、お念仏の香りを漂わせながら、歌に関することや映画の製作秘話等、色々なお話を織り交ぜ、その合間合間に歌を披露頂き、参加者もとても和やかな中、ご法義に触れる時間を過ごさせて頂きました。どのお話もまたどの歌も引き込まれるようで、とても良かったのですが、その中で私はとても心に残った歌があります。それはNHKのドラマから映画になった「LIVE! LOVE! SING!」生きて愛して歌うこと」の挿入歌です。このドラマは東日本大震災のその後を題材にした物語で、先生はその中の主人公の夢の中の一



の、主人公の夢の中の一



一枚の写真

信楽慧

カメラを持って歩いていると、道ばたに溜まったゴミの中に新聞紙の切れ端がありました。何か気になって、シャッターを切りました。大切なものが捨てられているような...

安楽寺マンガ通信

その3 | 信楽めぐみ作



悪いことあるから、ばねなければい、と思いきや...



坊守の記 (信楽徳子)
私が通っている鍼の先生に言われた言葉がずっと気になっていました。先生との会話の中で「私は体が弱い方だがインフルエンザにだけはかかった事はありません」と話した所「風邪にもかからなくなったらおしまいだ」と言われた事がありました。その事がずっと頭の中に引っかかっていた。そんな時、あろうことか人生初のインフルエンザにかかってしまいました。あれよあれよという間に症状が悪化していき、発病から三日間は本当に辛い状況でした。その後の回復期は外出禁止でしたので、家の中の軽い用事しかできず、もてあました時間は読書の時間にあてました。主人の本棚にある本を数冊選んで部屋に持ち帰り、読書に没頭したことです。そこで私は長い間頭の中で引っかかっていた事の答えをみつける事ができました。

それは、五木寛之さんの「不安の力」という本の中に日本の東洋医学を代表される野口晴哉さんの著書『風邪の効用』という本がひいてありました。「風邪とか下痢というのは体の大掃除である。人は体がアンバランスになっているとき、風邪や下痢はバランスを取り戻す大事な作用なのだ。むしろ風邪をひいたなと思ったら喜ばなければいけない。風邪もひけないようなコチコチの体ではどうしようもない。」と書いてありました。あっこれのことだ、と私は思いました。



風邪もひけてよかったんだ、と思いつつまた、寝こんだ時にいろいろ助けてもらっていることに感謝の心がわいてきました。

編集後毎日、聞きたくもな... 良心が失われ... 心が... 良心

「放射能はないつもり 爆発なんてないつもり 強い絆があるつもり だから心配ないつもり 311はなかったつもり 地震も津波もないつもり 日本はひとつであるつもり それで安心なつもり。」と福島そして日本の現実、そして私たちの心的確に言い当てています。みな人ごとです。また、わが身を振り返ってみても、私は大丈夫なつもり。家族も大丈夫なつもり。ここは安全なつもり。いつまでも生きていくつもり。いつまでも一緒にいるつもり。今日と同じ明日が来るつもりと根拠がないにもかかわらず、私の「つもり」に全幅の信頼をおいています。

「たわごとまことあることなき」と、その「つもり」を、根拠から覆されます。全てをつもり、つもりと思いついて、現実とは違うものを見ていくのです。その私に当てにならぬ「つもり」を支えにするのではなく、「ただ念仏のみぞまこと」なのだと思ってくださいました。念仏はつもりとしか思えない私に気づかせ、本当の支えを教えてくださいました。この「つもり」今は良くて、最後には恐ろしい姿をあらわします。いつか「こんなつもりじゃなかった」という現実が必ずあらわれます。そこであわてても間に合いません。だからこそ、いつ私の思いが崩れても、決して崩れることのない、確かな教えにあつておくこと、それが大事と私たちにお念仏は届けられているのだと思います。

GI G つもり (2016/2/中国新聞)
阪神大震災から20年という節目の年だった昨年の3月10日、NHKで「LIVE! LOVE! SING!」として追加編集され、映画館での公開となった。実は私は「謎の歌手」として出演している。私の起用は、音楽を担当した大友良英さんの案かと思いきや、脚本の一角を伸幸さんからの指名だという。登場するのは、主人公がみた夢のような場面だれも住んでいないはずの故郷の商店街で、人々が集まって賑やかにお祭りをやっている。その櫓の上で歌っている歌手が私の役だ。

歌としてだ。だがこれらの言葉は、皮肉なことにもあまりにも生き生きしている。まさに今の私たちの現状を言い当てていると思った。撮影は実際に避難指示の出ている福島県の浪江町。普段は夜間の立ち入りは禁止だが、撮影のために特別に許可をされた。エキストラとして、もともとの住民の皆さんが、それぞれの避難先から大勢集まってきた。その数400人を超えていたという。突然の雨に打たれながらの凄まじい高揚感。まさに「夢のお祭り」だった。大地や海からの警告に耳を塞ぎ、福島をとりまくさまざまな惨状をほったらかし、「絶対安全」「アンダーコントロール」などという言葉が出てくること、またそれらがうのみにされてしまうことは私には理解できないが、いざにせよ人間はみな、愚かであり頼りないものである。それでも4月、電力の自由化を迎える私たちの選択が、大きな問題を動かすこともできると希望を抱く。自分の一生などという短いスパンではなく、もっと長い目で、未来のある選択をしたい。映画は残念ながら広島での上映が決まっていなかったが、山口では予定している。私も、指名を使命と受け止め、この曲を歌ってみたいと思う。(歌手、大龍寺僧侶 大竹市)

お念仏のしずく



が、人間をの

せて月の世界に飛んでいった時、それが再び地球に帰ってくるについて、一番心配なことは、地球を取り巻く空気のあつい層の大気圏に突入する時、地球に対する角度をあやまらないことであつたといわれます。この宇宙船が大気圏に突入する時、その中に乗っている飛行士も、地球の指令本部も、全神経を集中して、その角度の調整につとめたのです。もしもその角度をあやまると、宇宙船は空気の圧力のために大気圏に突入できないで、人間をのせたまま永久に地球に帰れなくなってしまうというのです。私はこの話を聞いて、私たちの真宗念仏の聞法についても、同じように角度が大切であることをしみじみと思ったことでもあります。もしも角度をあやまってしまうならば、たとえそれがどれほどけんめいに、長く続けられようとも、到底本当の信心をう

「角度をあやまるな」

真宗の教えを学ぶという事は、それが人生の手段として、何か役に立つというものではなくて、私自身の生命の問題として学ぶべきこと。また真宗の教えを学ぶという事は、それによって自分を裝飾し、武装して、強くなるのではなく、かえって、それによって、私自身がつきくずされ、うちくたかれてゆくものであること。そしてまた、真宗の教えを学ぶという事は、たんに知識や意識に学ぶのではなく、自分の生命の体験として学ぶべきであり、そのことが、日々の生活ににじみ出るように学ばねばならないこと。この三点をあげました。このことは、真宗の念仏の教えを聞くについて、くりかえし、こころして思いおこさなければならぬことでもあります。そのことを忘れては、どれほど長く聴聞を重ねようとも、決してまことの信心をう

かつてアメリカのアポロ宇宙船

『この道をゆく』

安楽寺法要案内

三月	彼岸会	日時 3月12日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 関西大学非常勤講師 源淳子師 講題 一人(いちにん)に立つ めざめ体験とは
四月	花まつり	日時 4月9日(日) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 本願寺総合研究所研究員 備後 東光坊 坂原英見師 講題 お念仏とは何ですか
五月	降誕会	日時 5月15日(日) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 NPO法人ダーナ理事長 兵庫 勝林寺 西池匡紹師 講題 仏教と現代社会 分水嶺を越えた社会の福祉

暮らしの中の仏教語



『つやむや』(有耶無耶)

仏教以前のインド哲学では、ある派は「死後の生存はある」とし、ある派は「無い」とし、盛んに論争してしました。それに対して釈尊は人生から浮き上がったそのような理論のための理論を退け「全ての事物は因と縁の和合によって生じ、かつ滅するのだ」と説かれ、「したがって、不幸を生ずる因と縁を造らなければ、幸せに生きるこ

ともあれ、その物事があるか(有耶)無いか(無耶)から疑問の対象を(有耶無耶)というようになり、それから転じて、物事に処する態度や事件の始末などに疑問が残る、あいまいない事を「うやむや」というようになりました。昔お釈迦様が退けられた「うやむや」です。今ほどこもかしこもうやむやで、いいかげんで、あいまいなことばかりですが、私たち仏弟子はお釈迦さまの教えを大切に、うやむやではない、ご縁の世界を見ていきたいものです。